

# 妊娠前の体格および妊娠中の体重増加と子宮内発育不全の関係

メタデータ	言語: jpn 出版者: 日本DOHaD学会 公開日: 2022-03-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 村野, 弥生, 東海林, 宏道, 米岡, 大輔, 大西, 一成, 清水, 俊明, Gilmour, Stuart メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10271/00004025">http://hdl.handle.net/10271/00004025</a>

第 10 回日本 DOHaD 学会

<一般口演 5>

### 妊娠前の体格および妊娠中の体重増加と子宮内発育不全の関係

1. 順天堂大学小児科、2. 聖路加国際大学公衆衛生大学院

村野 弥生

東海林宏道 1、米岡大輔 2、大西一成 2、清水俊明 1、Stuart Gilmour 2

【背景】本邦は他の先進諸国と異なり平均出生体重が低下している。その原因として若年女性の痩せや妊娠期間中の不十分な体重増加による胎児発育不全 (fetal growth restriction: FGR) があげられるが、国内での大規模な研究は少ない。そこで、エコチル調査 (子どもの健康と環境に関する全国調査、環境省) のデータを用いた検討を実施した。

【方法】同調査より、母体の年齢、妊娠前の身長と体重、分娩前の体重、既往妊娠歴、妊娠中の合併症 (高血圧や糖尿病、多胎妊娠) の有無、喫煙の有無、出生児の性別、在胎週数、体重、先天奇形の有無についてのデータを抽出し、先天奇形と早産児を除いた単胎児を対象とした。在胎週数別出生体重基準値における 10 パーセンタイル値を下回る児を FGR と定義した。FGR の有無を outcome とし、妊娠中の体重増加を exposure として、母体の妊娠前の body mass index (BMI)、年齢、妊娠中の合併症、喫煙の有無を加味してロジスティック回帰分析を行った。

【結果】対象となった児は 81941 例であった。ロジスティック回帰分析では FGR の発症に関する Odds 比が妊娠中の体重増加 100g/1 週間あたり 0.96 (95%CI: 0.96- 0.97) であった。多変量解析における変数で FGR に有意に影響した因子は、妊娠前の BMI、妊娠高血圧症、年齢、喫煙であった。

【考察】今回の検討により妊娠中の不十分な体重増加が FGR に関与することが示された。令和 3 年 3 月に日本産科婦人科学会より妊娠中の体重増加指導の目安が改訂されたが、妊娠前の体格と妊娠中の体重増加、妊娠中の合併症と FGR との関連について、今後も国内のデータを蓄積する必要がある。